

- 記事内容
- ☆平和行動in広島
 - ☆平和行動in長崎
 - ☆夏休み自然体験「山の学校in尾瀬」/
夏休み親子自然体験「山の学校inときがわ」
 - ☆埼玉県最低賃金の改正決定について/
9月の行動予定表
 - ☆あけぼのビル

～ 恒久平和の実現に向けて 核兵器廃絶への新たな一歩を～

2016平和行動in広島・in長崎

平和行動in広島

8月4日(木)～6日(土)に「平和行動in広島」が開催され、連合埼玉からは15名が参加した。初日は終戦まで軍港があり帝国海軍の要所であった呉市の「海上自衛隊呉史料館」「大和ミュージアム」を見学し、2日目は、午前中に爆心地周辺の施設見学をし、午後は戦時中から広島市内を走っていた路面電車の車窓から広島市内の被爆地を見学し、その後、連合主催の平和ヒロシマ集会に参加し、原爆投下時の広島市内の様子を聞くことができた。

また最終日には、71年前に原爆を落とした米国のオバマ大統領が5月に訪問した平和公園にて、平和記念式典が開催された。

新たに亡くなられた被爆者を加え、原爆死没者は30万人を超えた。私たちは、今回の視察で見聞きしたことを風化させることなく次世代に伝え、核兵器廃絶と世界平和に向けて私たちの出来ることから活動をしていく。



参加者の皆さん 被爆路面電車前にて

平和行動in長崎

8月8日(月)～10日(水)に「平和行動in長崎」が開催され、連合埼玉からは12名が参加した。8日は、連合主催(原水禁・KAKKIN共催)の「2016平和ナガサキ集会」に参加し、被爆体験者の田川博康氏より被爆当時の貴重な話を聞いた。田川氏からは、生き残った自分がやれることはなにか、日本の将来のためにやれることはなにかという自問から戦争の恐ろしさを次世代に継承するために語り部となったとお話があった。長崎に原爆が投下された8月9日は「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」に参加し、午後からは「長崎原爆資料館」の見学と、爆心地公園にて連合長崎青年委員会の皆さんより被爆当時の遺品や石碑の説明を受けながら散策する「ピースウォーク」、夕方には浦上川の「万灯流し」に参加した。

今回、長崎で自らが見聞きし学んだ原爆被害の実相と、また、その廃絶と世界平和にむけて、私たちも責任をもって活動をしていかなければならない。



参加者の皆さん 平和祈念像前にて

日程	平和行動 in 広島	参加者
1日目(8/4) ■ピースウォーク① 時間 15:45~17:50 会場 てつこのくじら館、大和ミュージアム		牧田 晴充 (連合埼玉副会長) 高橋 直樹 (UAゼンセン/武州製菓ユニオン) 小宮 健 (JAM埼玉/東邦車輻労働組合) 可児 哲也 (JP労組埼玉連絡協議会) 山口 学 (情報労連/NTT労働組合北関東信越総支部さいたま分会) 長谷川 丈晃 (運輸労連/熊谷通運労働組合) 渡邊 直之 (運輸労連/武蔵貨物自動車労働組合) 佐藤 市二 (朝霞・東入間地域協議会/JP労組埼玉西南支部) 百瀬 竜哉 (西部第四地域協議会/シチズン労働組合埼玉支部) 小川 武 (比企地域協議会/ソーシン労働組合玉川支部) 中村 孝男 (東部地域協議会/日本鉄管労働組合) 成田 雅 (北埼玉地域協議会/ショーワ労働組合) 八戸 広美 (連合埼玉女性委員会/東京電力労働組合) 小川 義人 (連合埼玉青年委員会/JAM埼玉) 小林 孝徳 (連合埼玉副事務局長)
2日目(8/5) ■ピースウォーク② 時間 9:10~11:40 会場 本川・本町小学校平和資料館、原爆ドーム 平和公園、平和記念資料館 ■被爆路面電車乗車学習会 時間 13:10~15:00 会場 広島駅~広島港~原爆ドーム前 ■連合2016平和ヒロシマ集会 時間 16:30~19:30 会場 HBGホール ■連合・原爆死没者慰霊式 時間 20:00~20:30 会場 広島市平和記念公園 原爆ドーム前		
3日目(8/6) ■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」(広島市主催) 時間 8:00~ 会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前		

①平和行動に参加したのは何回目ですか? ②何を目的に参加しましたか? ③感想

①2回目
 ②戦争の悲惨さと平和運動の大切さを自覚すること
 ③戦争が終わり、原爆投下から71年が経過した今なお、原爆の後遺症により多くの人々が苦しんでいることを改めて実感した。世界には、未だに核兵器が存在しているという事実は世界平和の大きな脅威であり、人類はその恐怖にさらされ続けている。戦争のない世界、平和社会を進めていく上で、世界で唯一の被爆国である日本が果たすべき役割は極めて大きいと思う。これからも核兵器廃絶に向けた国際世論形成に日本が先頭に立ち、私たち労働組合や平和団体が運動をけん引していかなければならないことを強く感じた。



牧田晴充

①初めて
 ②原爆の悲惨さを知るため
 ③戦争を体験せずに平和な世の中に生まれたため、原爆や戦争はどこか遠い存在のように思っていた。しかし、本川小学校や原爆ドームを実際に目の前にすると言葉を失うほどの衝撃を受けた。原爆投下は実際の事件であり、どれほど凄惨でむごいものだったかと。今回の平和行動は、非常に多くの内容を3日間に濃縮しており、平和について学べる大変素晴らしいものだった。今後、多くの仲間へ平和の重要性を伝えていきたい。



高橋直樹



①初めて
 ②戦争の悲惨さと原爆の恐ろしさを改めて認識するため
 ③平和記念資料館、原爆ドームを見学し、改めて戦争や原爆の恐ろしさを体感し、今日の平和で当たり前の生活ができる環境が幸せだと感じた。また、高校生平和大使の活動報告は、世界で唯一の被爆国であるからこそ、その悲惨さを世界中に伝えることができ、核兵器廃絶に向けた活動を行えると報告していた。「微力だけど無力じゃない」という言葉にとっても感動した。今回の行動で感じた、二度とこの様な悲惨な出来事を繰り返してはならない事を次世代に伝えていきたい。



小宮健

①初めて
 ②戦争を肌で感じるため
 ③平和行動で戦争について理解を深めることができ、もっと多くのことを知りたいと考えようになった。今回、平和式典に実際に参加して戦争を肌で感じる事ができた。戦争を実際に体験した人が年々減少している今、若い世代の私たちが戦争について関心を持ち、実際の体験談を聞き、それを次の世代に伝えていくことが今ある平和を守るために必要なことだと思う。私は今回の経験を周りの友人に伝えていき、一人でも多くの人に戦争について関心を持ってもらいたい。



可児哲也

①3回目
 ②世界で初めて被爆地である広島を実際に見て聞いて感じてみたかった。
 ③被爆体験証言では自らの被爆、周りの人々の様子等、体験者でなければ語れない生々しい話を聞き、高校生平和大使のメッセージでは、被爆二世が痛に侵され亡くなり、そして自らの世代が被爆三世として抱えている不安が感じ取られ、戦後71年経った今でも広島に本当の平和が訪れていないと痛感した。今後は、微力ですが核兵器廃絶に向けた取り組みに協力する事を心に誓い、この貴重な経験を一人でも多くの人に伝えていきたい。



山口学

- ①初めて
- ②尊い命が一瞬にして奪われた悲劇を風化させないため
- ③熱線により焦げた遺品、爆風に押しつぶされた家屋の写真を目の辺りにし戦争の悲惨さと理不尽さを痛感した。平和とは何か?今一度、全世界で正面から向き合う大切さと、二度とこの悲劇を繰り返してはいけない、この貴重な体験を多くの人と戦争を知らない世代へ伝承して行かなければならないという使命感が強く湧いた。平成28年8月6日8時15分、一斉の黙とう。水と緑で満ち溢れる場所で安らかな眠りと世界恒久平和を願った。



長谷川丈晃

- ①初めて
- ②広島の実態確認と平和維持の認識を新たにするため
- ③被爆の痕跡や平和資料館を見学し、平和ヒロシマ集会で被爆体験談を聞く事ができた。体験談を語ってくれた坪井さんの「助けたくても助けられなかった」という台詞と平和記念公園の石碑に書かれた「過ちは繰り返させぬから」がすごく印象に残っている。原爆の被害を受けた広島だから余計に重みを感じる言葉で、改めて核廃絶や平和の重要性を思い知った。我々は今の平和のありがたさを噛みしめ、これを次の世代に引き継いでいく責任があることを実感させられた。百聞は一見に如かず、まさにこの言葉通りだと思う。



渡邊直之



被爆路面電車 乗車学習会

- ①初めて
- ②平和の実現に向けて平和憲法を守り戦争を起こさせないため
- ③今年で被爆から71年目。しかし、核兵器が存在する限り、71年前の悲劇は決して過去のものにはならない。私達は国内外で今も放射能の被害に苦しんでいる人々がいることを忘れない。平和ヒロシマ集会では、高校生平和大使のメッセージは感動した。被爆体験証言では、坪井直理事長の話で、労働組合は今何をすべきか?を考えさせられた。



佐藤市二

- ①初めて
- ②原爆の恐ろしさを肌で感じ、平和について考えるため
- ③平和行動では、我々と同じ思いを持つ他の団体や高校生平和大使など真の平和に向けて行動を起こしている人達が大勢おり、これらを継続させて行く事の大切さを感じた。また、我々は唯一の被爆国の人間として、原爆による悲惨な実態を世界へ発信し、核廃絶へ向けての道のりを少しでも短縮できるよう働きかけなければならない事も改めて認識した。一個人として出来る事は限られているが、今回の様に被爆地に足を運び、肌で感じた事を次世代へ伝承させていく事も大切な事だと思う。



百瀬竜哉

- ①4回目
- ②戦争と核兵器の悲惨さの再認識
- ③今回も、坪井さんのお話を聞く事ができた。約1時間、立ったままでお話されたのに驚いた。また、平和大使の活動報告と決意表明をされた高校生のプレゼンは立派だった。戦争で祖父や叔父が亡くなったり、今でも後遺症で苦しんでいたり、彼女達も不安を抱えながら生活しているようだ。坪井さんと彼女達の経験したつらい思いを二度と繰り返してはならないという思いが伝承者として、また、世界への発信役として強い使命感を持って活動している事に敬服。微力だけど無力じゃない私もその一役を担う事を誓った。



小川武

- ①初めて
- ②被爆地ヒロシマを自分の目で見たかった
- ③連合2016平和ヒロシマ集会に参加し、広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長の話聞いた。集会の前に平和記念資料館を見学したこともあって、すごく生々しく、目の前に浮かぶようだった。今後も平和な日本にしていくためには、何かをするための一歩を踏み出さなければ、いけないと思った。



中村孝男

- ①初めて
- ②原爆について学ぶため
- ③写真やテレビでしか見たことのない原爆ドームを実際に見たことや、被爆路面電車に実際に乗るなど、当時の建物や乗り物が被爆したままの姿で今なお多く残っていて、身近に起きた出来事だと考えを改めることができた。高校生平和大使の『ピリョクだけどもリョクじゃない』の合言葉は、高校生の強い思いに胸が熱くなった。被爆体験者の思いを、一人でも多くの人に伝えていきたい。



成田雅

- ①初めて
- ②平和の尊さと平和行動の体験のため
- ③まさに炎暑とも言える厳しい暑さの中、被爆地を巡り、今まで当たり前であった日常が、幸せだった日々が、あの一瞬の原爆で破壊され、想像もつかない苦しみにへと変わり、その苦しみは戦後71年の今現在でも続いている現実がある事を思い知らされた。そして、今の日本が、私達がどんなに恵まれ、今生きていることが、どれだけ素晴らしいことかを…。あの日の出来事を知る人が少なくなっている中、世界で唯一の被爆国日本に住む私達が戦争の恐ろしさ、原爆の悲惨さ、今なお続く被爆者の苦しみを伝え、風化させてはいけないことの重要性も強く感じた平和行動となった。



八戸広美

- ①初めて
- ②現地の状況を自分自身の肌で感じるため
- ③3日間の行程は私にとって非常に貴重な体験をした。2日目の「平和ヒロシマ集会」の坪井直さんの被爆体験証言では、まさしく実際に体験された方しかわからない、痛み、苦しみ、悲しみを壇上で表現されており、それは私たち戦後世代の人々が体験していない戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさが語られていた。二度と戦争が起こってほしくないと感じたとともに、この体験を次代に語り継いでいくことの大切さを学んだように思う。



小川義人

日程		平和行動 in 長崎	参加者
1日目(8/8)	<p>■連合2016平和ナガサキ集会 時間 15:30~18:00 会場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ</p>		<p>早田 明雄 (UAゼンセン埼玉県支部) 野口 秀樹 (JAM埼玉/シチズン労働組合埼玉支部) 石井 光晶 (情報労連/ウィンテック労働組合) 貝沼 哲男 (情報労連/ウィンテック労働組合) 新山 元子 (運輸労連/ヤマト運輸労働組合埼玉支部) 鈴木 勝宏 (川口・戸田・蕨地域協議会/NTT労働組合川口分会) 齊藤 成元 (県央地域協議会/北本市職員労働組合) 中山 格臣 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/八木橋労働組合) 渡邊 良夫 (秩父地域協議会/秩父富士労働組合) 大畑 幸子 (連合埼玉女性委員会/シーケーエンジニアリング) 佐藤 洋太 (連合埼玉青年委員会/ベルク労働組合) 近藤 正人 (連合埼玉副事務局長)</p>
2日目(8/9)	<p>■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典(長崎市主催) 時間 10:30~11:45 会場 長崎市平和公園</p> <p>■ピースウォーク 時間 14:15~16:30 会場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園</p> <p>■万灯流し (原爆殉難者慰霊奉賛会主催・連合協賛) 時間 19:00~20:00 会場 浦上川、長崎市宮陸上競技場</p>		



平和ナガサキ集会の様子

①初めて
②今の仕事をつうじて、“平和”について何をしなければならないのか?を確認するため
③一瞬にして7万4千人余りの尊い命が奪われた日から71年も経過しているが、今日でも人間は何も学んでいないのではないのか。この平和行動に先んじて、UAゼンセン埼玉県支部主催の「平和学習in知覧&鹿屋」へ参加した。各々の若き特攻隊の短い人生・家族愛を戦争体験者の生の声を通して聞く機会を得、「次の戦争を起こさせない責任」を負っていると感じた。そして、今回の参加でますます私たちが今やらなければならないことを痛感した。未だ世界に1万5千発以上の核兵器が存在し、人間破壊の危険性がある。次の戦争を起こさせないために、社会運動として“核兵器廃絶と世界の平和”に向けた働きかけをより強く、広く続けていかなければならないと確信した。



早田明雄

①初めて
②被爆地で何を感じることができるのか知ることができなかった
③71年がたち、復興した長崎を訪れる機会を得て、出発前に思ったものは、セレモニーや記念碑的なものはあっても、現在進行形の原爆・被爆はもうないのだろうと漠然と感じていた。しかしながら、まだ戦後も原爆も終わっていないのだということを訪問して強く感じた。今なお原爆症に苦しむ方々、高齢となったご遺族の皆さま、お遺骨がまだ埋まったままになっているという地層。被爆地から全世界に向かって平和を発信していこうとしている高校生をはじめ若い方々。長崎市長のオバマ大統領を賞して言う「その行動によって、自分の目と、耳と、心で感じることの大切さを世界に示しました」が、そういうことなのかと感じた訪問となった。



野口秀樹

①3回目
②核兵器・核爆弾の脅威を再認識するため
③3回目の平和行動だが、自分自身の中で薄れていた戦争の恐ろしさを改めて再認識し、心の中に刻むことができた。
71年前、長崎上空に原子爆弾が投下され炸裂し、一瞬にして長崎の街が地獄と化し、7万4千人余りの人々の命が奪われた。被爆者は高齢化のため年々少なくなっていく中、私達は被爆者の声を直接聞くことのできる最後の世代として、身近な者から訴えていく一人にならなくてはならないと思った。



石井光晶

①初めて
②原爆の被害を認識するため
③長崎に原爆が投下されたのは71年前で、私が生まれる40年も前の事。被爆の影響は71年経った今でもしっかり残っていて、その悲惨さを確認することができた。戦争は二度とあってはならないという思いを強く感じ、そのために自分ができることを考えていきたいと思う。



貝沼哲男

①2回目
②戦争の悲惨さとこれからも平和であり続けるため
③原子爆弾が投下されて71年経った。
異国情緒あふれる長崎だが、当時多くの方が犠牲になり被爆された方々も高齢になっている。そして現在語り部として活動されている方々も年配の方ばかりで後世に伝えて行く人も少なくなって来ている。被爆体験された方の話しが有り、戦争の恐ろしさや原子力爆弾の凄まじさの話が有り、大変胸が痛く涙があふれた。今回、平和行動で多くの方々と仲間に出逢い、学んだ事、そして体験した事を活かして連合の仲間と共に一致団結し、これからずっと日本、世界中に戦争のない平和であり続ける為にこれからも活動を続けて行きたい。



新山元子

- ①4回目
- ②次世代への継承

③71回目の長崎原爆の日、式典には多くの遺族の方が参列されていたが、以前参加させて頂いたときよりも、確実に高齢の方の参加が減ったように見えた。遺族者席の空席もあり、参加者の方も被爆者の子供や孫へ変わってきているように感じた。平和行動は原爆・核兵器の恐ろしさを知ることはもちろん重要だが、さらに参加した者として、戦争などの経験はないが平和行動へ参加する事を積み重ね、語り部さんの証言を幾度も聞くことで平和への思いを強くし、「自分も語り継ぐ」という気持ちを改めて強く持ち、次世代に繋げて行きたい。



鈴木勝宏

- ①初めて
- ②原爆被害を知ることと平和祈念式典の参加
- ③被爆地としての「ナガサキ」はやはり強烈な印象があった。それは原爆投下後71年という時間が経過しても消せない被害の実態がまだ残されていたからだと思う。ピースウォークで訪れた数々の原爆被害の爪跡には、今でも黒く焦げた石造物や押しつぶされた家屋などが残されていて、あの日の熱線と爆風のすさまじさを見ることができた。今回の平和行動中に「伝える」ことの重要性を異口同音に繰り返し聞くことができた。特にいろいろな世代間に被爆地の記憶を繋げることが強く言われていた。今回の行動を自分自身もいろいろな場面で伝えていき、またこれからは戦場の若い職員にも是非体験してほしいと思った。



齊藤成元

- ①初めて
- ②被爆者の声を聴くこと、原爆の恐ろしさを体感すること

③私がはじめて被爆者のお話を聴いたのは、広島で高校3年生の修学旅行だった。この時は今思うと子どもで話は理解しているが、どこか他人事のように感じていたように思う。「もし同じ時代に生きていたら、はたして自分が子どもを守れるのか?」など考え、原爆資料館や被爆を物語る建物をみて平和のありがたさをしみじみ感じた。戦争の悲惨さ、原爆の悲惨さを後世にどのように伝えていくのか?戦後71年、体験者は高齢になりお話を聴ける時間は少なくなっている。私達の世代が考え、行動しなければならない。



中山格巨

- ①2回目
- ②被爆国として如何に後世に原爆の悲惨さを伝えていくかを知りたかった。
- ③長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加し、大変貴重な経験をさせて頂いた。当時の実体験を語れる被爆者は80歳を超え、「被爆者がいない時代」が近づいてきている。長崎を訪れ、原爆資料館や今も残る史跡を辿り、当時の惨状を知ると共に、その後の被爆者の苦しみ、そして2世、3世の苦しみや苦悩を知ることが後世に伝える最も有効な手立てであり、こういった平和行動の機会を継続し、多くの方に参加して頂くことの大切さを感じた。



渡邊良夫



灯籠に願いを込めて



折り鶴献納



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

- ①2回目
- ②平和の尊さと戦争・原爆の悲惨さについて深く学びたい

③平和ナガサキ集会にて被爆者の方から直接体験談を聞き、戦争・原爆の恐ろしさを感じた。また、高校生平和大使の皆さんが非常に活発な活動をされている姿を拝見し、自分も何か力になれることはないかと考えさせられた。ピースウォークでは、市内で原爆の爪痕が残る場所や平和への願いが込められた石碑などを見学し、参加者全員で鎮魂と平和の祈りを捧げた。世界唯一の被爆国の一員として原爆の悲惨さを後世に伝えること、世界の恒久平和実現に真剣に取り組むこと、その必要性について再確認することができ、非常に得るもの多い濃密な時間を過ごすことができた。



佐藤洋太

- ①初めて
- ②長崎のことはほとんど知らなかったため自分の目で見ておきたかった
- ③原爆が投下された日の平和祈念式典には実際に参加して初めて、長崎の人々がこの日を本当に大切なものと捉えている事を実感した。一方で、初めて訪れたナガサキはかつて原爆が投下されたとは信じがたい、キリスト教文化に彩られた平和な街だった。戦後70年を過ぎた世代交代の中で、唯一の被爆国である日本ですら戦争や原爆の恐怖を他人事のように感じ始めているように思う。今回感じた事を多くの人に伝えていくと同時に、日本中、世界中の人が被爆地を訪れ、平和が当たり前存在するものではないことを自らの五感で感じてほしいと願う。



大畑幸子

尾瀬の自然の豊かさと雄大さを満喫

ネットワークSAITAMA21運動 夏休み自然体験2016in尾瀬

ネットワークSAITAMA21運動では、親子・家族などで尾瀬の自然に触れ、自然の大切さと保全の重要性などを学ぶ機会として『夏休み自然体験プラン』を設けている。本年度も、7月23日(土)～24日(日)の2日間、構成組織・地域協議会の組合役員とその家族31名の参加のもと「夏休み自然体験2016in尾瀬」を開催した。

1日目(23日)は、「尾瀬自然教室ギャラリー」を見学した後に、尾瀬の自然の豊かさと環境保全の歴史についての学習会として、現地山岳ガイドの方よりスライド、模型を用いたわかりやすい説明を受けた。2日目(24日)は「尾瀬ヶ原コース」と「至仏山コース」に分かれ、登山道周辺の環境保全状態を確認しながら豊かな自然に触れるウォーキング・登山をおこなった。

今回の自然体験は天候にも恵まれ、尾瀬の自然の豊かさや雄大さを満喫することができ、その自然を人の手で汚すことのないよう保全していくことの重要性も肌身で感じる事ができた。



参加者のみなさん



尾瀬ヶ原コース:ウォーキングの様子



至仏山コース:山頂付近の急登

ときがわで家族と夏の思い出づくり

ネットワークSAITAMA21運動 夏休み親子自然体験2016「山の学校inときがわ」

本年も夏休みを利用して親子で自然に触れることにより、自然環境の大切さを学ぶことを目的に比企郡ときがわ町にて『山の学校 in ときがわ』を開催した。

組合員とその家族を対象とした『山の学校』を8月6日(土)に開催し、スタッフを含め120名を超える参加があった。また、翌7日には東日本大震災で埼玉県内に避難されている親子を対象に69名の参加のもと開催した。

連日続く猛暑の中、冷たい山水が流れる都幾川散策では、川遊びや、沢ガニ取りに子どもたちは夢中になった。続いたのバーベキューでは、本年度は参加者自らが火おこしをおこなった。悪戦苦闘しながらも、家族で協力しながらおこした炭で食べるバーベキューは格別の味となった。また、昔ながらのお釜で炊いたご飯と、はんごうで炊いたご飯の提供も好評を得た。また、毎年開催協力を得ている「ときがわ山里文化研究所」による恒例の流しそうめんなどの催しもおこなわれ、子どもたちは終日大はしゃぎであった。

まだ多く自然が残る都幾川で、家族とともに過ごした1日は、思い出に残る夏休みの1日となった。



バーベキューの様子



毎年恒例の流しそうめん

平成28年度 埼玉県最低賃金の改正決定について

埼玉地方最低賃金審議会は、本年7月6日(水)に埼玉労働局長から「埼玉県最低賃金の改正決定について」の諮問を受け、埼玉県最低賃金専門部会を設置し調査審議をおこなってきた。この審議会は本年7月28日(木)に中央最低賃金審議会より示された「平成28年度地域別最低賃金額改定の目安に関する公益委員見解」等を踏まえ、公労使での真摯かつ慎重な審議の結果、8月5日(金)に埼玉労働局長に対し、埼玉県最低賃金額を「時間額845円」とする旨の答申をおこなった。

この時間額845円は、現行の埼玉県最低賃金(820円)を「25円」引き上げるもので、上昇率は3.05%であり、時間額で決まるようになった平成14年度以降では、上昇率・上昇額共に最大の引上げ幅であり、本年10月1日より効力を発生する予定となっている。

【参考:埼玉県最低賃金額及び対前年度上昇率・上昇額】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度(答申)
時間額	802円	820円	845円
対前年度上昇額	17円	18円	25円
対前年度上昇率	2.17%	2.24%	3.05%

現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 木	第2回地協議長・事務局長会議(15:00～・あけぼのビル501)	
2日 金	①女性委員会第8回幹事会(9:00～・あけぼのビル3F) ②女性のためのSTEP UPセミナー(10:00～17:00・あけぼのビル3F)	①比企地域協議会「政策制度研修会・幹事会」(～9/3) ②第5回地方連合会事務局長会議(13:30～16:00・連合会館)
3日 土	①組合役員教育プログラムスキルアップ@ (10:00～・あけぼのビル3F) ②女性のためのSTEP UPセミナー(10:00～11:45・あけぼのビル501)	
4日 日		
5日 月		連合「オルガナイザー研修(フォローアップ編)」(～6日・成田ビューホテル)
6日 火	第10回四役・執行委員会(10:00～・ときわ会館)	
7日 水	組合役員教育プログラムスキルアップ@ (10:00～・あけぼのビル3F)	
8日 木		
9日 金		①朝霞・東入間地域協議会「第4回幹事会」(18:30～・本田技研労働組合事務所) ②働く人の電話相談室(9/9～9/11)
10日 土	組合役員教育プログラムスキルアップ@ (13:00～・あけぼのビル3F)	①電機連合埼玉地協「第56回定期大会」(13:00～・ときわ会館) ②平和行動in根室(～9/12)
11日 日	埼玉シニア連合「第6回ボウリング大会」(10:30～・浦和スプリングレーンズ)	
12日 月		平成28年度埼玉県シニア活躍推進企業表彰に係る選考委員会(9:30～・埼玉教育会館)
13日 火		①運輸労連「第49回定期大会」(13:30～・さいたま市民会館おおみや) ②連合「第3回構成組織・地方連合会女性代表者会議」(14:00～・中央大学駿河台記念館)
14日 水	地協会実務者研修会(10:00～12:00・あけぼのビル2F)	①情報労連埼玉協議会「第47回定期大会」(15:30～・あけぼのビル501) ②埼玉県生産性本部「第2回女子カフォーラム」(14:00～・ソニックシティ602会議室)
15日 木		埼玉労福協第5回理事会(10:00～・ときわ会館)
16日 金		①JAM北関東定期大会(～9/17・水上) ②電機連合埼玉地協「東日本大震災ならびに熊本県を中心とする九州地震復興支援第23回チャリティーゴルフ大会」(東松山カントリークラブ)
17日 土		
18日 日		
19日 月		
20日 火	政策・制度要請(10:30～・埼玉県庁)	北埼玉地域協議会「第7回幹事会」(18:30～・羽生市民プラザ)
21日 水	第26回チャリティーゴルフ大会(おむらさきゴルフ倶楽部)	
22日 木		
23日 金		
24日 土		
25日 日		①比企地域協議会「第3回チャリティーゴルフ」 ②連合関東ブロック「地域協議会活動推進会議」(～26日・西友労働組合会館)
26日 月		
27日 火		
28日 水	①メンタルヘルス研修会(基礎編)(10:00～16:00・あけぼのビル501) ②第2回組織委員会(15:00～・連合埼玉会議室)	2016全国高齢者集会(9:00～・文京シビックホール)
29日 木		退職者連合・地方代表者会議(9:00～・ホテルルポール麹町)
30日 金		連合関東ブロック政策フォーラム(13:30～・川口総合文化センターリリア)

Akebono Building

あけぼのビル

| 事務局長

| 佐藤 道明 |

◆既に始まっている「大介護時代」

わが国の65歳以上人口は、2015年9月現在で3,384万人、高齢者率は26.7%で「超高齢社会」に突入している。それに伴い、介護保険制度における要介護または要支援と認定された65歳以上の人は、2015年に618.9万人で第1号被保険者の約18.0%を占めている。認知症高齢者も増加し続け、認知症患者数は2012年時点で約462万人、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されている。今後高齢化がさらに進んでいくにつれ、認知症の患者数がさらに膨らんでいくことは確実である。厚労省の推計によれば、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占める見込みである。

このような要介護高齢者の多くが、何らかの介護保険サービスを利用しているが、それだけで高齢者の生活が成り立つわけではない。主な介護者の71.2%が家族であり、介護事業者は14.8%に過ぎない。主に同居の家族が着替え、体位交換、食事介助、排泄介助などの介護を担っている。

日本の「大介護時代」は既に始まっており、介護を理由とした離職者は年間10万人にも及ぶと言われ、介護負担を軽減できず、1人で抱え込んだまま、身体的にも精神的にも限界に達し離職に至るケースも少なくない。

◆介護も備えが肝心

介護に対する理解は進んでおらず、介護休業取得者の割合は3.2%と非常に低い。このままでは団塊の世代が後期高齢者になる2025年以降には、介護のために離職を余儀なくされる働き手が急増するのは必至だ。育児・介護休業法が改正され（平成29年1月1日施行）、(1)介護休業の分割取得、(2)介護休暇の取得単位の柔軟化、(3)介護のための所定労働時間の短縮措置等、(4)介護のための所定外労働時間の制限、などの見直し・新設がされた。また、介護休業給付金も休業開始前賃金の40%から67%に給付割合を引き上げた（介護休業開始が平成28年8月以降の場合）。しかし、国や企業による制度整備の取り組みの遅れ、過酷な介護の実態に対する理解不足など、早急に取り組むべき問題は山積している。

一方、働く側も介護保険制度について知識が乏しく、制度を利用しきれていない。介護にまつわる制度・名称・言葉のいずれも浸透しておらず、制度・事業者・要介護者の問題点が多く取り上げられる一方、誰もが介護を受ける前になりうる「介護者」の存在が、身近なものとして伝わっていない。そのため、ある日を境に「介護者」になった多くの

人が、「何から動けばいいのか」「どんな制度が使えるのか」「どこに相談すればいいのか」など、パニック状態に陥ってしまい初動が遅れてしまう。私たちは、度重なる災害の経験から「防災」の重要性を学んできた。備えが必要なのは防災だけではなく介護も同様である。

◆介護の「初動」に備える意識を持つ

介護保険制度は、介護保険料を支払うことで、介護が必要になった際に、自己負担額が1割（2015年8月より一定以上の所得がある本人に限り2割負担。しかし、利用者負担には月額上限があるため一概には言えない）で介護サービスを受けることができる制度となっている。日本では、40歳以上になると介護保険への加入が義務付けられており、毎月介護保険料を支払うことになる。

そして65歳以上で介護が必要になった要介護者を第1号被保険者と呼び、40歳以上65歳未満で介護が必要になった要介護者を第2号被保険者と呼ぶ。第2号被保険者の場合は、16の特定疾病が原因で介護が必要になった際に介護保険サービスを利用することができ、第1号被保険者の場合は、要介護の認定がもたらした時点で原因に関わらず介護保険サービスを利用することができる。

介護が必要になったという判断は、病院や担当医がおこなうことではなく、要介護者本人または家族が、自治体の介護保険窓口申請することになる。申請する前に、自治体の介護保険窓口や地域包括支援センターに相談をすることが大切である。申請の手続きから利用開始までのプロセスは次の通り。

(1)市区町村の役所に要介護認定の申請を行う。(2)役所からの調査員が聞き取り調査を行う。(3)調査員が主治医に意見書の提出を求める。(4)一次判定、二次判定を行う。(5)要介護認定の区分が決定する。(6)決定した要介護認定区分によって利用できる介護サービスを選択する。(7)介護サービスの利用を開始する。なお、原則として申請から30日以内で認定結果が通知される。

認定区分は、日常生活の一部に介助の必要はあるが、心身の機能の維持・改善が見込める状態である「要支援1～2」、日常生活で介助を必要とする状態の「要介護1～5」の7段階に分けられており、要支援に認定されれば「介護予防サービス」、要介護に認定されれば「介護サービス」を利用することができる。

介護者に必要なことは、精神的な支えとリスクを学ぶ教育。今は親が健常であっても、介護の初動に備える意識を持つことが重要であり、介護で孤立しないためにも「とにかく、言葉でSOSを発する」「仕事・介護・自分の3つの時間を持つ」「経験談を聞ける情報源を見つける」など、心がけることが必要である。少なくとも、介護保険料を納め始める40歳と親が65歳（第1号被保険者）になるときは、介護保険制度について意識を持つことが大切である。

2016.8.24